

議長記者会見（第21回）会見録

日時：平成27年12月18日（金）

午後3時01分～

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う中村議長（右）と西田副議長（左）

1 今議会を振り返って

12月議会、第5回目の定例会も無事終了いたしまして、ほっとしております。6月、9月、12月と、西田副議長とともに3回、議会運営に携わらせていただき、無難にこなせたと思って、大変喜んでいるところです。西田副議長のお力添えをいただきながらの8カ月ということになります。中村・西田のコンビが100%の力を発揮できたと自分では思っています。

（1）補正予算の議決について

今回の12月議会では、4億円の補正予算。内容は、河川堤防等の点検結果を踏まえた緊急的な保全対策ということで、通常とは違って特異なケースではなかったかと思えます。国会も、来年1月に入ってから召集されるという状況の中で、12月議会

では、人件費等々についても、取り上げられなかった。4億円という少額な補正予算ということで、私自身、こんなこともあるのかということで、勉強になりました。

あくまでも、災害の未然防止の補正ということですから、県民の安心・安全を守るということについては、異論のないところでございまして、私自身、予算の執行については、しっかりと見守っていきたいと思っています。

(2) 論戦について

今回も、一期や二期の議員の皆さんが、多く発言をされていまして、議会の活性化につながるという意味では、非常によかったと思っております。

ア 新長期構想について

新幹線が開業後は、多くのお客様が来県し、一定の開業効果が出ているということは皆さんご承知のとおりであります。最近、観光客だけのための石川や金沢であってはならないという、経済界等々からの発言もありました。今回の質問の中では、石川の文化をどんな形に位置づけていくのか、あるいは新設の県立図書館についてはどうか、新長期構想の中で数値目標を設定すればどうか、などの質問がありました。的をついた質問であったと思います。

県の方も、いしかわ文化振興条例の趣旨を踏まえながら、「個性と魅力にあふれる文化と学術の地域づくり」を重点戦略の1つとして柱立てをしているようでありますし、「加賀は天下の書府」ということで、図書館の建設についても、市町の図書館をまとめるということではなくて、連携をしながら、県立図書館として中核的な役割を果たす図書館にしていきたいということでした。私も同感であります。数値目標については、個別分野における目標とも整合性を図りながら、今後早期に設定したいという答弁もありましたので、議会としても、しっかりと精査をさせていただきながら、やらなければいけないなと思っています。

イ スポーツ振興について

スポーツ振興につきましても、質問がありました。つい先ほども、スポーツ議員連盟の研修会が議会庁舎内で行われておりまして、教育長を始め、教育委員会の幹部や体育協会の専務が出席しておりました。県議会としても、議員連盟を立ち上げたということ、また東京オリンピック・パラリンピックまで、あと5年を切り、事前合宿の誘致に関しましても質問が出ました。スポーツ議員連盟でも、アスリートの育成強化や指導者の養成、更にはスポーツ活動を支える環境の整備についても、実現のための努力を要請していきたいと思っています。議員連盟の中でも話が出ました

が、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の会長が、森喜朗元総理で石川県出身。事務総長が、武藤敏郎元石川県総務部長。そして馳さんが文部科学大臣、岡田さんが財務副大臣。先日東京へ行きましたら、「石川県は事前合宿では一人勝ちできるのではないですか」とまで言われたので、質問させていただいたのですが、石川県民のために、ということで、こういうチャンスを素直に受け止めて活かすことが大事ではないか。ということで、このような質問があったのは、大変意義のあることと考えています。

ウ 若者の結婚支援について

若者の結婚支援についても、いろいろ質問がありました。結婚相談やお見合いの仲介を行ういわゆる「縁結びist」ですが、結婚支援への取組みは、人口減少時代を迎えてとても大事ではないかという質問もありました。大変時宜を得た質問であったと思います。民間組織「日本創成会議」のある機関の発表によると、2040年には、人口が95万人くらいになる、とのショッキングな報告がなされていますので、改めて、結婚に対する若い人たちへの配慮や仕掛けは、絶対に大事ではないかと思っており、これも時宜を得た質問になったと思います。議会も、しっかりと行政と協力してやらなければいけないと思っています。

(3) 意見書について

意見書も、今回いくつかありまして、各党派からの意見書が6件ありました。そのうち、「地方大学の機能強化を求める意見書」「夜間中学の整備と拡充を求める意見書」など4件が可決されました。私自身、議長に就任して以来、6月と9月の議会終了後、この意見書を必ず持参して各省庁に届ける。このことを実践してきました。

今回も、12月25日に意見書を持参して、手渡してきたいと思っています。既に馳文部科学大臣と岡田財務副大臣からは、「お待ちしております」というお返事をいただいております、石川県民・石川県議会の意思として、しっかりと伝えたいと思っています。

私は、持参するということは、極めて大事なことであると思っています。私も、実際に県議会に来られて要請があった団体というのは、しっかりと覚えています。単に机の上に置かれた要望書というのは、自然に目を通す機会が少なくなる。これは中央も地方もいっしょだと思っています、持参して「大臣にもよろしくお伝え下さい。」との言葉を添えて渡す。このことで、石川県議会の誠意を知っていただけるのではないかと考えておまして、今回も、相手方が担当の1職員であっても、丁寧に説明をして、お渡しをします。6月議会の時でも9月議会の時でも、全ての省庁の受

け付けていただいた職員さんは、「必ず大臣に伝えます」という返事でありました。

今回は、逆に言えばこれまでの確認もできる。そういう意味でも持参したいと思います。

2 今年一年を振り返って

さて、副議長にも後でお話いただくとして、私自身、4月30日に、石川県議会の第97代の議長に就任させていただき、本当にこの8カ月は、素晴らしい経験をさせてもらいました。新幹線開業後でありましたけれども、賑わいの創出、経済効果を、しっかりと継続的に全県に波及させる、そして、これを富山県や福井県などともしっかりと連携しながら、その効果を波及させなくてはならないとずっと思っていました。

少なくとも現在では、それが実現しているのではないかと、思っておりまして、改めて、「劇的に変化する石川」を目の当たりにできた8カ月であったと思っています。

5月の16日、17日、18日には、天皇陛下が第66回全国植樹祭に来県され、私自身、知事と同行させていただいたという栄えある役割を、生涯の財産にしたいと思っています。

西田副議長ともお話をしたのですが、私自身、今年を漢字一文字で表すと何ですか、と問われると、「感動」、「感激」、そして「感謝」の「感」に尽きる、と答えたいと思っています。

私自身「開かれた議会」を目指していますが、それが「開かれた県政」に通じると思っております。今年1年、マスコミの皆様方にも、何人も何回もお越しいただいておりますし、職員さんにも、何人も何回もお越しいただいております。マスコミの皆様には、大変お世話になりました。先の統一地方選では、新しい議員が誕生し、自民党所属の議員は、最終的に31人になりましたが、奢ることなく県民の負託に応えていきたいと思えます。

来年からは、18歳から選挙権が与えられます。若い人には、選挙への関心をもっと持ってもらう。それには、こちらも範を示す必要があると思えます。

議会としても、例えばこの夏に行われました「ふれあい親子県議会教室」。これは去年と今年の2回行いましたが、こういう子どもたちや、日頃、議会や県政に直接ご縁のないお父さま方やお母さま方に、議会を通して県政を理解していただく、そしてこの行事を通して、家庭の中で話し合いをしていただく。これが議会や県政に関心を持っていただけることにもなると思っています。

その他、韓国全羅北道議会議員団の訪問もありましたし、また重要なところでは、北陸新幹線敦賀以西のルートの話もいろいろとありました。石川県議会としましては、「米原ルートの早期実現を求める決議」を行いました。それによりまして、ルート

に関する議論が活発になってきましたので、一日でも早く大阪までフル規格で線路を繋げる、そのことについての、具体的な働きの一助になったと思っており、そういう意味では、素晴らしい決議であったと思います。

先ほど申し上げましたとおり、馳衆議院議員、岡田参議院議員が、それぞれ大臣、副大臣になられましたので、こういう機会を通して、知事を始めとする執行部の皆さんが、もっともっと地元の国会議員と連携を強めて、もちろん私たち県議会議員もそうではありますが、更なる石川県の発展のため、大いに活動すべきと思っています。

本当に、マスコミの皆さん方には、ご指導・ご鞭撻いただきましたし、議長室にも来ていただいて、情報交換を図りながら、私自身も勉強させていただいたということで、改めて感謝いたしております。

以上で、私からのご挨拶とさせていただきます。

西田副議長

副議長の西田です。中村議長と共に8カ月、お仕事をさせていただきました。今年は、新幹線開業など、節目の年でもありましたが、中村議長とともに仕事をさせていただいたことは、私にとっても大変勉強になりましたし、県全体にとっても大きな変革の年でもあった中、議会でも、中村議長がバイタリティーを持って、そして先頭に立って、多くの課題に取り組んだ年でもあったと思います。

私自身、議長のサポート役ということでしたが、議長とは、「全ての会議や行事を、正副議長がどちらかは出席するようにしよう」と話をし、私はその役割の半分から3分の1くらいを担ったような形ではありますが、その中で、個人的にいろんな情報発信も2人でさせていただきました。多くの県民の方からは、「本当に正副議長って忙しいのですね。ここまで活動するのですか。」と知ってもらったこともありました。

私自身もいつまで任期があるのかわかりませんが、引き続き、中村議長のご指導をいただきながら、共に県議会の運営のために、少しでもお役に立てればと思っております。マスコミの皆様方におかれましては、本当に多くのご指導をいただきましたことに、心から感謝をいたしまして、来年もまた、石川県議会をサポートしていただきますよう、心からお願いさせていただきます、ご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

3 質疑応答

記者

先ほどおっしゃっていただいた「開かれた議会」に関してですが、先の改革推進会議では、政務活動費のホームページでの公開について、会派に持ち帰って考えましょ

う、とのことでした。個人的なご意見でも結構ですが、議長自身はどのようにお考えですか。

中村議長

自民党は、持ち帰る、となっていますが、現に、見ようと思えばいつでも見られる、という状況下にあることは事実です。形だけのオープンではなくて、もっと精査をして、皆が納得していただけるようなオープンの仕方をしていくというのが大切ではないかと個人的には思っています。

記者

今のお話ですが、ホームページ上の公開については、賛成とか反対とかどちらでもないとかとの話で言えば、どうなりますか。

中村議長

私自身、自分自身では申し上げることはできません。

記者

それはなぜですか。議長という立場だから、ということですか。それともどちらかわからないので、ということですか。

中村議長

両方ともでしょうね。

記者

18歳選挙権のことですが、夏の「ふれあい親子県議会教室」が好評だったということで、対象年齢を引き上げるとかのお考えはありますか。

増田局長

現時点での対象は、小学校4年生から6年生ですが、今のところ対象年齢を引き上げるといった検討はしておりません。

西田副議長

小学生の応募が、受け入れ人数の5～6倍もありますから、年齢引き上げもそうですが、幅を広げるというところも議論が必要なのかなと思います。

中村議長

2日間に分ける、とかの議論は、今あるところですね。

村田企画調査課長

ふれあい親子県議会教室は、まだ2年目で始まったばかりということで、もう少し様子を見ようというのが、今の広報広聴会議での議論であります。人気があるものですから、その枠をどうやって増やすかということについて、検討しております。

中村議長

後はございませんか。また皆さん、議長室や副議長室へおいでになって、情報交換をさせて下さい。

どうもありがとうございました。